

日大・拓大生座談会



孤立と連帯のはざまで

司会・高木正幸

高木 安生君死のリンチ事件で、拓大の学生が立上がった。世間からみれば拓大ではじめて学生運動がおこったと言われるが、実はここ二、三年潜在的に改革運動が続けられている。それが日の目をみなかつたのは、日大と同じように、大学の管理体制下にがんじがらめに縛りつけられていたことと、大学側の先兵としての右翼＝体育系暴力装置が運動を抑えつけてきたことによる。そこで、まず、今回の拓大闘争の前史および現状の報告から話してもらいたい。

拓大W 六七年六月に、第一次民主化闘争があった。当時のそれなりに民主派だった自治会が、授業料値上げ問題とか学生会館問題など、公開七つの質問状を大学当局につきつけた。それにたいして当局はなんら答えようとしなかった。そこで抗議行動として、本館前で約二〇〇のすわり込み闘争をやった。そこへ例の日大芸術部を襲撃した右翼が、日本刀をもってなくなりこんできた。翌日、「拓禪会」「拓忍会」などの右翼暴力集団によって自治会室が占拠され、自治会

は機能停止に陥った。そういう状況のなかで、学生大会を開いたが、すごいなんでものじやない。意見はもちろん言わせないし、ヤジをとばせば、ひっぱりだされてしまう。体連・寮が総動員されてブツとばされる。体連・寮が総動員されていて、一番前の人間が手を振ると連中がワード拍手する。そういう構造によって、「旧自治会執行部」がデッヂあがられた。

なんとかしなくちゃいけないと思つて、ぼくらは拓殖大学学生連絡会議といふ組織を作つて地下活動をはじめた。コ

1970.7.26

4

大学当局と右翼＝体育会が一体となつた『恐怖政治』が学内を支配している点では、拓大と日大は酷似している。その拓大で起つた死のリンチ事件が、かつての日大闘争大爆発と同じようなシーンを再現するきっかけになりうるかどうか。両大学学生の討論を通じてこんごの展望をさぐる。

〔写真=自治会系の学生集会とそれを二階から見守る体育系学生たち。6月23日、拓殖大で〕

朝日ジャーナル

「たとえ拓大のためとはいって、直接行動にでることは相手を利するのみの結果を招く。暴力排すべし。しかし挑発行為も排すべし」という内容の大学側見解が出された。社研・現代政治研の展示は挑発行為であるといふんです。そこでぼくらは、暴力事件を問題にして討論の輪をひろげ、声明文を持ちよつて代議員会をもつたが、またまた右翼にふみこまれ、軟禁状態を強いられた。一二月には、ある程度の運動の盛り上がりをみせたが、冬休みに入ることによつて結局つぶれていった。

そのいらだちのなかから、ぼくらは東大闘争でかけていった。ぼくはそのまま逮捕され、起訴され、停学にされた。

拓大といふのは面白いところで、個人の

政治活動を認めるわけです。要するに、右翼の活動ばいっさい認められている。

北方領土返還運動ならい。日の丸行進などちゃんとタテカンができる。ところが、北方領土が沖縄に、安保に変ると、左翼だからわかるわけです。だからぼくの処分理由といふのはふるつてい

て、小菅拘置所での面会拒否と、学生部長からの事実経過の説明要求の拒否が理由にされた。

処分問題と並行して、「扶桑」事

件がおこつた。これはすごいカラクリがある。「扶桑」の表紙の裏に、日大全共闘の写真がはつてあることを理由に、発行直後に大学側によつてすべて回収されなんですが、実はその写真をはつたの

は旧自治会のK委員長なんです。本当の問題がどこにあったのかといえば、社研なり、現政研なり、代議員会なりの文章の内容であつた。それを旧自治会は自主規制によつて肝心なところを伏字にしていた。

この処分事件・「扶桑」事件をきつかけとして、ぼくらは六九年六月七日、

『全学行動委員会』の結成大会を新大塚公園で開いた。そこへ右翼のなぐりこみ、学生部職員もデカもいたけれど、とめもせず見ていくだけ。四〇人がケガを

し、六人の重傷者がでた。その怒りをぼくらは二〇日の集会にぶつけた。約一千人

の方が甘かつたがゆえに、七月、八月と何

もできなくて、書記局部分がみんな崩れ

ていった。つまり、夏休みのあいだに、

地方の支部を通じて直接家庭に圧力がか

けられたんですね。その結果、ぼくもやられましたけど、ボンボンボンボン経済ス

トップが出た。その問題でつぶれていくた。

拓大**X** 拓大的支部は全国で七三支部

あつて、かなりの力をもつており、各家庭を掌握している。そから親に恫喝がかかる。「おたくの息子さんは、大学で

こういうことをやつていてる……」。ふつ

うの親御さんはそれに弱い。息子なり娘

がケガをしたら困る。だから、「やめて

くれ。やめないんだつたら、仕送りをと

めをぞ」。

なぜ運動がつぶれたか ■

対を叫ぶのではなく、意識的に安保を、ベトナムを、教育の帝国主義的再編を語ることが必要じゃないのか。かれらの弾圧に耐えぬき、粉碎できるだけの団結の精神をもつた運動体形成をしなくちゃいけない。そういう痛烈な総括のなかから、六月行動委員会が作られた。

拓大**Z** そこへ安生君の死。客観的に

みれば、ぼくらとはちがう部分なんです。

けれども、ぼくらが問題にしたのは、リ

ンチ事件発生の温床を与えていたのはだ

れか、それはぼくらである、ということ

なのです。ぼくらは被害者であると同時に加害者である。安生君の死をまたひとつ

の事件として葬り去つてはならない。

ぼくらは数多くみている。寮での原因不明の死亡事件。体連・文連のクラブにおけるシゴキなんてのは、日常茶飯事として拓大的秩序のなかにベッタリはまりこんでいる。以前にも早大生を殺しているし、池袋・新宿などの盛り場での傷害事件。拓大的れっきとした講師が傷害事件・暴行事件をおこして、そのまま大学におさまっている。めつちやくちやな事態が平然とまかり通つていて。そういう

拓大的日常的秩序のなかで、安生君は死んでいた。それは冰山の一角であり、おこるべくしておこつたものだ。

「拓忍会」というのは、空手愛好会とな

つていて、それはカムフラージュにす

ぎない。「関東軍」なり、「朝鮮高校を

なくす会」といつた特殊な政治活動を目

的とする団体である。安生君は再三再四

退会届を出した。学校当局にも要請した。当局は「きみのことはわからた。まかしておいてくれ」と保証したにもかかわらず、実際にはなにもしない。安生君はみずから解放をかちるために、彼なりにささやかな抵抗をつづけた。その結果、死という代償をもって、はじめてそこからみずから解放をかちとることができた。

ぼくらは、六七年以來のぼくらの運動にかけられてきた弾圧と、安生君にかけられた弾圧・虐殺とは、本質的に同じだと考えた。だから、安生君の死を拓大闘争の突破口として利用するという気持はサラサラない。ぼくらは第二、第三の安生君をださないとともに、安生君のご両親が「わたしは直接うちの息子に暴行を加えた本人を憎むのではなく、拓殖大学の機構そのものを憎む」と語ったように、拓大総体の根底的変革をめざすものとして、今回の闘争を位置づけている。

強い右翼への恐怖心

高木 拓大と日大を比較した場合、右翼体育会の状況がそつくりだ。ただ拓大の方が右翼にたいする恐怖心がものすごい。拓大生というのは、集会がおわると実際に見事にサッと学校からひきあげる。「右翼が恐いから」という。Y君は麗沢湖につけられたひとりだが……。

拓大Y 肉体的な暴力よりも、精神的な暴力がすごい。「おまえの顔は絶対におぼえた。きさまが今度やつてることろ

をみたら、そのときは命はないものと思えた。

拓大W 学生服を着ていないだけで呼出されて、なぐられ、正座させられる。

マルクスの本なんかもってたら、イチコロですよ。ぼくは「安保をどう思うか」と聞かれて、「賛成する人いないんじやないか」と答えたものだから、灰皿をぶつけられた。日本刀を首筋にピタッとつけられたこともある。あのときは、もう死ぬかと思った。(笑い)

日大A 話を聞いていて、六八年日大闘争が爆発する以前の血みどろの三年間といわれている時期のことを思いだす。ぼくらも右翼からなる、蹴るの暴行をうけたり、日本刀をつきつけられたり、組織活動といつても、クラスの組織化は非常に困難で、サークル・ゼミ段階で討論がなされる程度で、大衆的規模にまでおりていかず、なかなか芽がでなかつた。日大の場合、例の数十億円の脱税事件が直接行動決起の条件になつたといわれるが、しかしその背後には、どういふところからいつ全学部で決起しようかということが、全学でヒソヒソ話で語られていました。具体的には、唯一経済学部において、足かけ三年間にわたる自治会執行部の争奪戦を右翼とのあいだで勝ち抜いてきて、民主化しようといふうなことを口にする人たちの巣になっていた。

日大B 血みどろの三年間のあいだおぼえた。きさまが今度やつてることろに、日大をふつうの大学並みにしようとなっていたわけだが、同時に潜在意識的に

いう確認が多くの闘う部分のなかでなされていたわけだが、同時に潜在意識的に

あれ、大学はわれわれのものであり、本当にぼくらのやりたいことのできる大

マニアックの本なんかもってたら、イチコロですよ。ぼくは「安保をどう思うか」と聞かれて、「賛成する人いないんじやないか」と答えたものだから、灰皿をぶつけられた。日本刀を首筋にピタッとつけられたこともある。あのときは、もう死ぬかと思った。(笑い)

日大C ぼくは六八年六月一日の蜂起以前は、右手に麻雀、左手に受験票と

いう、いわゆる現代学生氣質そのままの、単位取得だけをめざしたごく一般的な学生だった。ただ入学当時に、体つきの関係と付属高校時代からのくされ縁で、強制的に空手部に入れられた。ぼくはそれまで少林寺拳法をやっていたことをもって、精神面ではかれらに近いものであって、精神面ではかれらに近いものでもつていたが、例の「オス」と、正座させられてぶんなられるのが、どうにかまん出来なくて、退部を申出たわけです。ところが、「やめるには部長・副部長など幹部の許可だけではないんだ。

O.B.関係の許可もいる」とおどかされた。結局は五千円に特級酒をそえて出して、なんとかケリがついたんだが。

ところが、一緒に高校からいった友人は、体育会とのつながりから、六八年になつてからボクシング部というトレーニングもしない奇妙なる集団を作りあげて、芸闘委の先進的学友が学内集会を行なっているときを、ワッセ、ワッセといふふうなことを口にする人たちの巣になっていた。

拓大W 拓大にも派閥がある。面白いことに、銃剣道愛好会の連中が去年までは中曾根追放を言っていた。福田派の系列なんですね。ところが、中曾根が防衛

君にぶつとばされて、すぐすごひきあげていった。

この六八年一月の関東軍襲撃を徹底

抗戦のうち撃退してから、体育会から企画に入つてくる連中がかなりいた。そぞういう諸君はしょっちゅう帰り道などをねらわれ、おどかしをうけていた。

拓大B 大学と直接くついているかどうかはつきりとはわからないが、幹部からきょうはどこそこで集会があるから介入して騒げ、という指令が出るんです。地下集会で秋田君が演説していると、詰めえりの学生服が集つてきて、太鼓をならしてギャアギャアさわぐ。効果は絶大。ぼくらがちょっとでも動搖すると、演壇をとりまいてひきずりおろしたり。かなり組織的に動くんですね。

面白いのは、日大の場合、右翼にかなり派閥がある。日大闘争の初期に、応援団の副團長がすし折りなんかもつて差入れにきた。「おまえら、がんばってくれ」(笑い)。秋田君なんかは応援団や右翼の連中にもオルグをかけていた。

拓大W 拓大にも派閥がある。面白いことに、銃剣道愛好会の連中が去年までは中曾根追放を言っていた。福田派の系

は、関東軍の皇道隊副長という榮誉あるおエライさんにまでなつて、関東軍襲撃の先陣をたまわつた。そして芸闘委の諸

拓大X 錆剣道の連中は軍服をきてるんですよ。乱闘服とパリッとした制服があつて、自衛隊の制服よりもずっとカッコイイ。金ボタンがずらつとついていて。

“先行ファシズム”■

高木 拓大のサークル制度は、運動部・同好会・愛好会といふ三段階の独特なものである。安生君事件について「体育会はつねに暴力をふるつてゐる」というと、大学側は「正規の体育局に入つている運動部は統制がとれており、そういうことはいたしません」と言つた。

拓大X むこうの論理にのつかつて区別するのも面白い。体連の場合、部と同好会に予算がおる。愛好会は予算のおりない私的なサークルだから当局の関知するところではない、といふ。ところが、同好会になるためには、まず愛好会をやつて、その年月と活動内容が審議さる予定です。

来々週の八月九日号は同一六日号と合併、夏季増大号として課題論文当選作を全編収録します。「激動の六月」が去つて、一人ひとりの「70年以後」が問われているいま、緑陰の思索のかてとして好個の一冊をお贈りできるよう編集部の総力をあげて努力いたしております。なお、同増大号には日高六郎氏の特別寄稿「私と大学」(八〇枚)も予定しております。東大を去つて一年、同氏が問いつめてきた大学論はそのまま戦後史総体への問題提起にもなりまじょう。入選論文ともどもご期待ください。

夏季合併号(8月9日～16日号)お知らせ

本誌創刊一周年を記念して募集した課題論文「私にとつての70年以後」の審査は今週で大詰を迎へ、応募四〇八編のなかから約一〇編の入選作がきまる予定です。

朝日ジャーナル編集部

れて、はじめて同好会になることができるとかくる。「拓忍会」は愛好会だから関係ないというのは、規約自身のすりかえだ。

ぼくらの見方からすれば、大学当局自身が拓大右翼を育成している。具体的にぼくらの前に暴力装置として登場するのは、「錆剣道愛好会」「拓禪会」「拓忍会」などであろうとも、右翼】体育会総体として、そういうものを助長しているのは当局なのだ。ぼくらを具体的に圧殺していくのは、体連なり愛好会、ぼくらが談判しにくくときは学生部という形で、われわれの対処の仕方を二分してくる。当局にかけあっても「われわれに言つてきても関係ないから……」。ふつうの頭の回転ではなく術がない。まさに“先行ファシズム”ですよ。

日大B 当局の懐柔策はどうですか。
日大C 日大の場合だと、当局のいちばん痛いところをつかれると、「フランス料理でも

なかにつれていかれる。現地での徹底した反共教育や、人間的つながりができるところで、帰つてくると反革命先兵へと海外雄飛。「きみ、外国へ行きたくはないか。金は全部出してあげるよ」。台湾なんかにつれていかれる。現地での徹底した反共教育や、人間的つながりができるところで、帰つてくると反革命先兵へと海外雄飛。「きみ、外国へ行きたくはないか」といつてさつと帰つちゃった。(笑)

高木 中曾根氏は金持のポンポン育ちで、苦労というものを知らずに育ち、いちばんのエリートになつて、ボカッと拓大総長におさまつた。だからイデオロギー注入といつても、日大の古田のように用意周到綿密にやるのでなく、演説口調でもつて歯の浮くようなやつを、スタンドプレー的にやつてしまふということがな。

ところで拓大協同體精神といふのは? **拓大Y** 先輩後輩関係……。
拓大X や、中曾根の言ふのはちがう。満州事変のとき、中国語を勉強した拓大生が、協力隊として通訳の任務を果すべくでかけていった。そのなかでも國家の興亡と身を共にする部分は、スペイン完全に古田が開き直つた日大と、防衛府長官中曾根が総長をしている拓大と、象徴的な共通点がある。国家の意思が非常にストレートに入つてくる大学である。そして、日大には中道中和の日大

食いにいこうか」「温泉にいきましょう」とかくる。

「拓忍会」は愛好会だから関係ないというのは、規約自身のすりかえだ。

拓大W ぼくにもきましたよ。学生部に呼ばれて、「きみ、学生部にはかなりの権限があるんだ。特待生にしてあげるよ。奨学金もありつけあげようじゃないか。語学の単位も全部あげるから、運動だけはやめてくれないか」。それで、もちろん崩れちゃつた奴もいる。旧執行部のK委員長がいい例で、かれはもとはぼくたちと一緒にやつていた。それから、海外雄飛。「きみ、外国へ行きたくはないか」といつてさつと帰つちゃつた。(笑)

拓大X 一般的の学生は小バカにしていって、ほとんど出ないです。

拓大W 授業が休講になり、体連・寮がむりやり動員される。以前に一度だけ、ちょうど闘争の最中に、総長がつるしあげられたことがある。そしたら、「きようは野党の攻撃が多いからやめよ」といつてさつと帰つちゃつた。(笑)

1970.7.26

精神があり、拓大には拓大協同體精神があり、総長講演にはかららず「国家と共に」が出てくるが。

拓大X 一般の学生は小バカにしていて、ほとんど出ないです。

拓大W 授業が休講になり、体連・寮がむりやり動員される。以前に一度だけ、ちょうど闘争の最中に、総長がつるしあげられたことがある。そしたら、「きようは野党の攻撃が多いからやめよ」といつてさつと帰つちゃつた。(笑)



’70音楽界最大の話題 ワイスンベルク、カラヤン、パリ管弦楽団 待望の最新録音盤遂に登場

チャイコフスキーピアノ協奏曲第1番
フランク交響曲二短調



PTS・クリヤーサウンドによる理想の音の世界

東芝のエンジェルレコード

朝日ジャーナル

「自衛隊が行くならば、拓大生も行け」

といふ精神におきかえってきた。産学協同路線よりも一步先に行っている。

現職の大臣が総長であることは、闘争の局面の展開にとって大きな意味をもつ。もしも拓大闘争が日大のように盛上があれば、防衛庁長官の地位どころか、衆議院議員すらあぶない。だから弾圧がずっとストレートに出てくる。その手はじめが、あまりに早いロックアウトだ。

日大C 古田は戦後自分で日大を築き

あげた。だから、愛着心があつてしがみつく。ところが、中曾根はよこからボッときて、鎮座しますというやつだ。も

つと闘争が盛上がれば、ひよいとびだすと思うが。

拓大Z いや、拓大が守れなくて国が守れるか。(笑い)

高木 総長講演や、財界人・文化人を呼んでの特殊講義以外の日常の講義のなかで、ある一定の方向が打出されてくることがありますか。

日大D 新入生むけの大学側パンフをみると、「日大闘争」なんて言葉が使つ

ベスト・セラーのトップを独走
カラヤン、パリ管弦楽団との初顔合せによる最新盤

拓大X あります。ほくらの運動があ

ったとき、前学生部長の伊東敬先生の講義で、その解説をやりました。「なにか騒いでいる連中が集会をやらせろと言つてくる。しかし、校内のキャンパスはこんなに狭く無理だ。それをやらせろといふのは無茶だ。そこで、愛校心をもつてゐる学生諸君がとめようとする、それにたいして暴力をふるう……」といふのが、一時間以上づくわけです。

拓大W アドバイザー制度なんでも

ある。学校側のパンフレットには、学生三〇人ぐらいに一人つけて、学生の面倒を親身になつてみるんだといふ説明になつて闘争が盛上がれば、ひよいとびだすと思うが。

拓大Y いや、拓大が守れなくて国が

守れるか。(笑い)

高木 日大の場合、拓大の特殊講義にあたるようなものは?

日大D 新入生むけの大学側パンフをみると、「日大闘争」なんて言葉が使つ

てある。読んでみると、「日大共闘の

人たちは自由をめざすとか言っているけれども、実は暴徒がよからぬ方向にもつて

ていこうとな込んでいるのだ」うんぬんといふやうなことを露骨に書いてい

る。そういう形で、大学当局からのブルジョア・イデオロギー、反動イデオロギーの注入がされている。

日大B わざわざ講師をよんできて帝國主義的なイデオロギーを注入する必要はない。古田が「日大には全学連はな

い」と豪語していたように、日本大学のイメージそのものが機構としてがつちり固まっている。

拓大A ひと口に右翼・体育会と言

い」と豪語していたように、日本大学の右翼とか体育会の諸君には、任務分担の違

いがある。体育会は五つの軍團に編成され

れている。しかし、実際にやつているこ

とは、合宿につれていて完璧な思想調査をして、変なことを言う学生を全部チ

ックすることだ。

高木 日大闘争のなかでは、教授会が理事会退陣要求の決議を出したりした。

もつとも、全共闘が警察力で圧殺されることが多い。ほとんど寝返って、番犬みたいに一生

懸命警備にいそしんだが、拓大では今度、原助教授が抗議の辞任をしたけれども、

は、民族排外主義というか、天皇を上に

教授たちはどう考えているのか。

拓大X 日大と同じく、拓大的教授・職員はほとんど拓大のOBで占められて

いる。とくに理事事とか学部長などの重要なポストはそうだ。だから、たとえば教

職員組合を作ろうという動きが一部にあつても、拓大精神をふりかざす部分によつて恫喝され、つぶされた。教職員にたいしてなんらの幻想も期待ももつことはできない。

たてまつる尊皇攘夷の本格的な右翼思想教育が行われている。そしてかれらが各行動隊の教育をつかさどる部分として配属されているという構造になっていた。

また、いろんな派閥があつて、たとえば、六八年六月一日の経済学部ストライキのときに、日本刀やチーンあるいは鉄パイプで武装して襲ってきた右翼は、古田派ではないと言わわれている。また、応援団は一貫して前面に出てこなかつた。もちろん、現在ではある程度古田の一元支配体制が貫徹されることによつて、学内における右翼の勢力図もかなり変っているとは思うが、右翼には自分たちの純粹性を誇りたがるタチがあつて、よほど全共闘がすごい事件をおこしたといふとき以外には、統一がむずかしく、日常ふだんのかれらの動員力はさほど大変なものではなかつた。

ところが、かつてぼくらが運動のなかで、反革命別働隊と呼んでいた右翼が、本隊になりつつある。右翼といふのは、明治維新以前からの潮流をふんで、尊皇攘夷の思想を切磋琢磨していく思想右翼と、なにがなんでも現在の国家権力体制を維持していくとする権力の走狗としての行動隊との二側面をもつてゐる。そのどちらか一方が欠けても、右翼の力は發揮されない。現在はその合体がなされようとしているおそろしい時期だといふ。そのねらいはなにか。あらゆる拠点、つまり、学園だとか、報知新聞にみられる職場だとか、新宿、池袋等々とい

つた地域だとか、朝鮮高校にたいする暴行事件だとか、そういうあらゆる拠点において、人民の運動にたいする暴力的な行為である。

アジア侵略宣撫班 ■

拓大Z 拓大的場合も、去年「もみじ会」というのが結成され、第一挺団は突撃隊、第二挺団は予備隊、第三挺団はレボ隊と編成されている。旧自治会の構成員も、勝共連合や日学同からなつており、とくに今年に入つてからは、單に行動右翼として語ることのできない側面、本格的なファシストとして登場してきて

拓大X 具体的には、旧右翼自治会が「五月攻勢」というパンフを出した。実際になにをやろうとしたかといふと、拓大から共産主義者を追出すことだ。学校大から文連をバージし、ファシストの階級にすることをねらつてゐる。

拓大W 文連をみるとよくわかる。拓大的研究会でちゃんと研究活動をやつてゐるところは、全部右翼なんです。すばらしい部屋とたくさん金がエサとして与えられていると同時に、規制もものすごく。自分たちの主張が出せない。出せば

拓大X 拓大的創立が台湾協会に由来していることの気質が残存している。その象徴こそ、東南アジアへの海外雄飛だ。一方で中曾根は、大学の企業としてのイメージをアップさせようとしている。たとえば、「拓大卒業生がはじめて八幡製鉄に入社した。これはわたしが頼んで入

り、アジア研究会、中国研究会、語学研究会など右翼の牙城である。

去年の文連の規制は想像を絶するほどだ。「全学行動委員会の主催する集会・デモに参加してはならない。見てもいけない。もし見た者は除名する。除名しない。いサークルは廃部する」。これが文連の文句ひとつ出ないのでだから。

高木 日本資本主義のなかにおける大學の役割といふことに関連するが、日大は中堅労働者を大量に作る。拓大は、どうづくいえば、右翼あるいはファシズムの先兵を養う大学である、といふ感じがある。國士館とか国学院ともちがう。國士館や国学院の卒業生には、地方の小中学校の先生になるのが圧倒的に多い。拓大のねらいとして、超近代的な兵器をかぶつせる人間を七〇年代にむけて育成しようとする魂胆があるのではないか。自衛隊といふのは、超近代的な武装をす

るとともに、それをかつぐための時代錯誤的な人間を必要とする。そのギャップはものすごい。それを埋めるためのオロギー注入をやりはじめているのではないか。

ブレー キとしての役割 ■

高木 日大では、大学の役割を維持し補完するものとして右翼が存在する。ところが、拓大では右翼を育成すること自体を目的にしているといふうにとれる。日本資本主義の将来像として、片や福祉国家、片や東南アジア進出があって、そういう日本の体制の考へていて構図を達成するために必要なナショナル・コンセンサスの核として、右翼思想なりナショナリズムが利用される、というの

れでもらつたのだ」という自慢。しかしその背後には、企業に入つていく部分を、総長講演などによって、拓大的のレベルでもつて徹底した反共教育しておくことがある。拓大總体を、自警団みたいなものを養成する牙城として再編している。

拓大W 中曾根就任以来、学生は勉強しろ、ということがうるさく言われるようになつた。総長講演のなかでも、「語学がウルトラAで、それからスポーツがあれば、それだけで卒業させる」と言つている。いままで語学の単位を落しても、夏休みに一〇日ぐらい行けばすんだ。いまは、一年間夜間講座でなくてはならない。はつきりいつて、企業の一般的な労働者を作るだけだつたら、授業なんてどうでもいいわけですよ。では、語学にそれほど力をいれるのはなぜか。まさしく、植民地侵略宣撫班の資格だ。

好評発売中



人間こそ宝庫

扇谷正造著 定価450円

本書は著者が、かつてジャーナリストとして活躍した経験と豊富な知識を結集して、軽快なタッチで執筆した力作である——社会情勢の事、日常の出来事、企業内でのビジネスマンのあり方、戦前、戦後派の人の考え方等々貴重な経験を例にとつて客観的に解明している。ビジネスマンとして、知つておくべき問題、知らねばならない事、持つべき信念等、いかに生くべきかを示唆してくれる。

くと、現実に日本の中に手段が目的になつてゐる部分があつて、それが日本の構造の一部になつてゐる。實に恐ろしいことだと思うが。

日大▲ 先日六月闘争のさなかに、七〇年六月をスケジュール・カンパニアとしてではなく、権力との真向からの対決として闘おうとする各大学のいわゆる全共闘主義者の部分に呼びかけて、磯川公園で行動をおこしたが、それに先立つて実行委員会会議をもつた。そこでストライガムを何にしようかといふ議論が出てきたときに、日大全共闘は文句なく「アウェシユビツツ解体」を提起した。ほん

る諸君からみた大学の本質が逆にあらわれてきているのではないかと思う。言つてみるとならば、ブランディングはすべて東大の権威がとりおかない、それが総資本のなかでうまく展開していくように潤滑油を与える小役人どもが日大であり、それを実際に暴力でもつて保証するのが拓大である。日本資本主義は、六〇年代の自立過程を経て、七二年の沖縄返還を鳴物入りで宣伝しつつ、この再編期に世界的舞台におどり出ようとしているわけだが、その再編過程のなかでの明日の日本

の象徴的な姿を拓大にみてることがで

きると思う。

それで議論が集約されそうになつたときには、東大の諸君から「ちょっとそれではビンとこない。『近代化粉碎』を入れなければだめだ」という提唱がなされた。もしそこに拓大の諸君がいあわせたならば、「ファシズム粉碎」といったのではないか。これらのスローガンのなかには、学園において地道に活動を続けてい

う人もいるんだろうが、もうすこし筋金入りといふか、思想右翼としての存在がはつきりしている。

今後のイメージとして、中教審大学の構想のなかにおいて、東大は研究部門に集中するだろう。日大は、研究部門・教育部門・技術部門すべてを丸抱え的にまとめて面倒みちやう。それにたいして、

拓大は、日本の今後の動きを右から牽制するブレーキとして存在していくのであって、日本の将来社会の実現ということではない。

●トップ経営者ごぞつて推薦（順不同）
東芝社長 土光敏夫氏
キヤノン社長 御手洗毅氏
ソニー社長 井深大氏
江戸英雄氏
三井不動産社長 田実涉氏
三菱銀行頭取 涉氏

産業能率短大出版部
東京・世田谷・等々力6-39 電話(702)4151

大状況の違い

高木 最後に今後の闘争の展望について討論してもらいたい。

日大▲ 日大の場合大衆的な蜂起に成るのは、自分の信念の実現のためにいふものがある。その右傾化のなかから拓大のファシスト化というか、民族主義的

の状況とが、大状況からして異つてゐる。すなはち、六九年一月一八、一九日は、東大闘争の頂点がああい結果になり、それ以降の全体的な政治的ムードとして、大学を拠点とする闘争は、もはやひとつの大きな波を終えたのであるといふ。キャンペーんが、要するに、六八年当時から燃えさかつた全共闘運動といふのはひとつずつ悪夢だったというキャンペーんが、なんとなく流れている。もうすこし政治的にいえば、一月安田といふのは、六〇年代の学生戦線を中心とする部分のひとつ決着としてつきだされたということ。一方で、国家権力の側は、右翼暴力団や自警団など私的な暴力装置をフル回転させた形で、われわれの陣営にたいして極端な武力集中をかけてきている。もうひとつは、日大の場合には、五月二三日の蜂起以降、ただちに全学的な闘争の中核機関が必要であるということ、全学共闘会議が結成された。拓大の場合、全学的な闘いのはつきりした方向をもつた統一の中核がないと、右翼、大学当局、さらには国家権力をも利用した敵権力の攻勢には勝てないだろうと思う。

拓大X 拓大の場合、すべての部分を含む形で臨時執行部ができる。この臨執が全学を代表する機関として当局にあたる。中曾根自身記者会見で、「臨執は大衆団交代表団であって、自治会ではない」と語っており、裏返しに大衆団交代表団として認めている。そして、具体

的に運動を担うのは、各闘争委員会。すでに五〇あまり形成されている。各闘争委がみずからスローガンとみずから個別任務をもつて参加してくるなかで、ぼくら自身の相互連携をいかに実質化していくかが現在の課題である。

日大闘争において全学共闘会議は必然性をもつて作られていく。ぼくらの運動形態も必然性そのものから出てこなければいけない。それこそ七〇年代の新しい運動形態だ。具体的に考えているのは、全体波及ではなく、全体からの集約でもつて拓大闘争を開くいぬくこと。そのためにはわれわれの行く先々での情宣が必要であり、全都・全国での組織化が問題であり、とりわけ茗荷谷地区の組織化が意味をもってくる。日大芸闘委は孤立無援の思想で闘つた。僭越な言葉つかまえて、帰るな、とはいえないし方になるかもしれないが、ぼくらは孤立無援はお断りだ。そのためにはどうするか。「拓大は唯一果敢に闘つてゐる。だからきみたちも来い」では、やっぱり個別学園の枠を思想的にも運動的にものりこえられない。拓大からの単なる波及ではなく、再度各学園が新しい局面を開くなかにおいて、質的なつながりを開いていく。その意味で、全国全共闘の初開くなかにおいて、その具現化みたいなものを考えたい。

心の具現化みたいなものを考えたい。とにかく権力側は金とヒマにまかせて、ぼくらの運動をよく分析している。拓大当局はぼくらの動向をみまもりつつ、学内再編成をはかつていている。多角的な闘争手段をねらっている。それと闘うには新しい闘争形態が必要だ。ぼくら自身でつかかまえて、いわば余裕をもつて闘いたい。

拓大Z 現在ロックアウト体制がしかるべきことは十分予想される。では、たゞびこんでいけば粉碎できるかというと、そうではない。どれだけあらゆるグループをぼくらが汲みつくしていけるか、それがこの夏休みの最大の課題である。もし汲みつくことができれば、九月以降の展望はそれこそ洋々たるものと見てある。

魔の二ヶ月の課題 ■

- 日本唯一の電子頭脳のティーチングマシン
- カラースクリーンの新しい装置
- 外人教授による徹底指導
- 初心者の基礎クラスも有
- 幼児・小学生コース新設
- 早朝7時から昼・夜間の各コース
- 夏季特別セミナー・集中コース



四谷 PL外語学院

世界に通じる
米会話
独・仏・日語
7月生受付
7月20日開講
案内書無料送付
(冷房完備)

東京・四谷駅四谷口右へ歩2分
☎ 341-1434・1765 359-9557
大阪校☎ 261-8461 仙台校☎ 21-2032



ノーマン・メイラー最新作選集

夜の軍隊

山西英一訳 定価1500円

ペントゴン反戦行進に参加し、逮捕されたメイラーは沸きあがる怒りを、タイフライターに叩きつけた。そしてその燃えたき文章はドキュメントから「歴史」にまで昇華せしめた。(ピューリッツァー賞、金木図書賞受賞)

〔好評発売中／増刷出来〕
なぜぼくらは
ヴェトナムに行くのか?
早川書房

多町47799
神田東京振替

■邦高忠二訳 定価1000円
読売新聞評 いわば、これは機関銃のように発射される
狼語で語られた現代への挑戦である。
東京新聞評 底なるアメリカ的な面から照明を与える。

な広がりをもつ組織体を追求することが主要な課題なのか、あるいは、右翼と正面対決することが主要な課題なのか、そういうレベルでの消耗主義論にひきずりまわされる可能性がある。ぼくが考えるには、もっとも主要な理論武装の課題

は、人が政治化することの第一条件として、国家のゲバートにたいして新しい社会を生れいざらせるための助産婦としての暴力をぼく自身が身につける必要があることの確認だ。国家といふのはぼくらのお願いや要求や不満をききとどけてもらうものではなく、ぼくたちが本当に自由と解放を自分の手にしようとする

拓大W 現在、各闘争委は独自の活動が困難な状況を強いられている。ひとつには、ロックアウト体制。しかしそれだけではない。右翼を恐がってみんな出でこない。個別にやればテロられる。ぼくたちが大衆の自立した闘争委員会を物理

的にも保証できるかどうかに今後がかかっている。右翼とはつきり対決して粉碎する以外にぼくらの道は切開けないといふことは、だれしもわかっている。しかしだれも大衆自身が言葉にださない。

拓大D それを保証するものとされるものは同一だ。

拓大W 審と体連は右翼の牙城だが、本当に右翼と称するのはわずかしいない。応援団だつて、一年二年はクソミソに不満で、「ぼくたち三年四年になつたら、こんなことするのはよそう」とみんな話している。ところが上級生になると変つちやう。

拓大Z 変つちやうんじゃない。変りたくても変えることができないんだよ。翌日知つてゐるのに会うと、「悪かったな。先輩が恐くて」というんです。要するに、安生君みたいなのがいっぱいいるわけです。だからそういう部分を保証しなくちゃいけない。もう一步越えることにまでにならなくてはだめだ。ゲバ棒を

よつて、日大芸闘委が関東軍を撃退して以降、体育会から全共闘にはせさんじるものが続出したように、かれらがぼくらの陣営にくることは可能なんだ。

拓大B 地下集会のとき右翼がやつてきただ。みんな右翼は恐いと思ってる。下手なことをすればまたぶんぐられる。恐いから帰りたい。だけど、なんかおきるんじゃないかという期待があるわけだ。その期待に応えたのは、実はかれら自身だった。一度転回してしまえば、もう負けないぞといふ自信ができる。

拓大C ぼくらがブッとばされる瞬間は、一発でもなんぐりかえしたいと思いつながら、非常にくやしくなぐられていく。だから、そのへんはもつと加害者意識に居直つて対決していく必要がある。闘争が、非常にくやしくなぐられていく。だから、非常にくやしくなぐられていく。政治ストと提起された。だけどそんなのは面倒くさい。一九日は二年目だ。二三日までの安保自動延長問題がある。なかなかなきやいがん。無媒介的に集会に行つて、「日大闘争勝利」「安保粉碎」と叫んでもなにもならない。無気力化した学生に衝撃を与えることが必要だ。だから、非常にくやしくなぐられていく。

拓大D 初にいたのはヘルメットとゲバ棒だ。

拓大E これにしたつて後からくつつけた論理で、ぼくは日大芸闘魂といふんだが、ヘルメットとゲバ棒をかららず横において寝

もつたことのない人は、かららずいちばん最初に姿を消す。体制にくみこまれていくのもいちばん最初。

拓大F もうひとつ言つておきたいのは、論理的に破壊したからダメだということはない。闘う組織がないからダメだということもない。いくら理論を仰々しくこねまわしても、やっぱり石を投げるときは投げないといかん。六月一九日の芸術学部のストライキにしても、はじめは反安保政治ストと提起された。だけどそんなの